



北陸ブロックのHIV医療体制整備

研究分担者 渡邊 珠代

石川県立中央病院 免疫感染症科 診療部長

研究要旨

北陸ブロックでは、様々な活動を通して医療体制の整備に取り組んでいるが、ブロック・中核拠点病院への患者の集中が続いている。HIV陽性者の高齢化に伴う介護・在宅ケアの整備、透析や歯科診療ネットワークの構築等が急務である。

A. 研究目的

北陸ブロック内のHIV感染症の診療の現状調査を行った上で、当ブロックにおける望ましい医療体制の整備を目指し、活動を行った。

B. 研究方法

① アンケートによる北陸ブロックの現状分析

北陸3県のすべてのエイズ治療拠点病院（14施設）とHIV診療協力病院（2施設）へアンケート調査を実施し、拠点病院等連絡会議、各種連絡・研修会や北陸HIV臨床談話会等でアンケート結果の報告および意見交換を行った。さらに、結果を冊子にまとめ、関係医療機関や行政機関等に配布した。

② HIV/AIDS出前研修

医療機関（病院・医院や介護福祉施設などを含む）で働く職員のHIV感染症に関する知識や理解の向上を図るため、ブロック拠点病院や中核拠点病院のHIV診療チームスタッフが講師となり、希望のあった医療機関で研修会を実施した。研修前後に、アンケートで研修の評価を受けた（介護福祉施設は研修後のみ実施）。後日、アンケート結果および研修資料をまとめた冊子を送付した。

③ 医療従事者向けHIV専門外来研修

HIV診療に関わる職員を対象としたHIV専門外来研修をブロック拠点病院で実施した。研修の講師はHIV診療チームスタッフが分担して担当した。

④ 医療職種別HIV/AIDS連絡・研修会

北陸3県でHIV診療に携わっている職員が、医療職種ごとに研修会・連絡会を開催した。

⑤ 北陸HIV臨床談話会

HIV診療や事業の従事者の情報交換の場の提供を目的とし、北陸3県の医療従事者や行政担当者やNGOなどが参加する研修会を行った。

⑥ 教育啓発用資料の作成

HIV/AIDSについての基礎知識を図表として記載した卓上型カレンダーを作成し、ブロック内の医療機関に配布した。

<倫理面への配慮>

研修の際には、患者個人が特定されないよう、十分に配慮した。

C. 研究結果

① アンケートによる北陸ブロックの現状分析

北陸ブロックでのHIV診療の実情を把握するために、2024年3月末時点の診療状況について、ブロック内の全ての拠点病院と協力病院にアンケート調査を実施した。図1に、施設あたりの診療患者数（横軸）別にみた医療施設数（縦軸）について2020年から2024年までの5年間の状況を示す。中核拠点病院などの積極的に診療を行っている施設と定期受診者が無いまたは数名の施設の二極化を認める。図2に、北陸ブロックにおいて現在診療を受けているHIV陽性者数および感染経路別の年次推移を示す。同性間性的接触による感染が過半数を占める。

図3に、通院中のHIV陽性者のうち、抗HIV療法（ART）を受けている人数とその割合を示す。ARTを受けている人の割合は、2014年以降、大きく増加し、ガイドラインの治療開始基準の変更が影響していると考えられる。

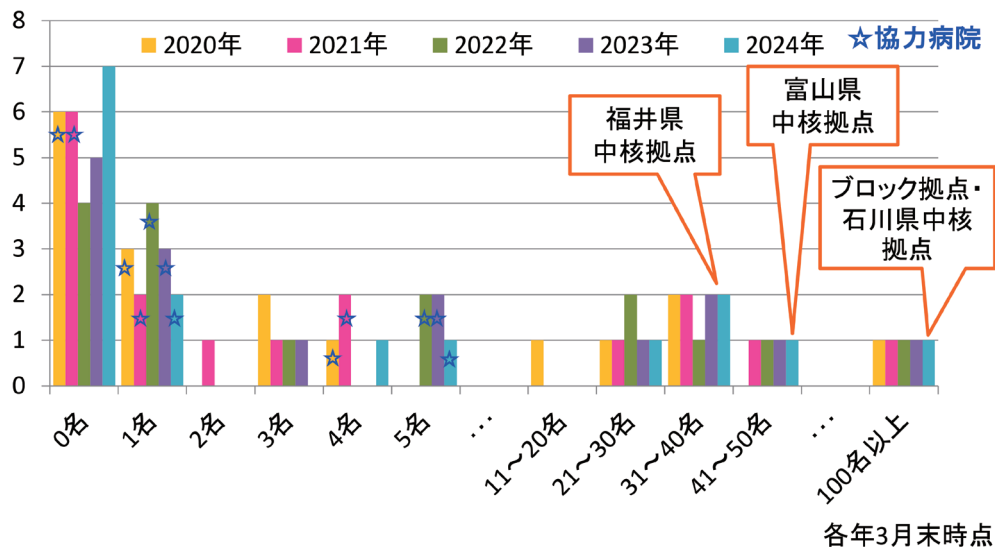


図1 診療患者数別施設数

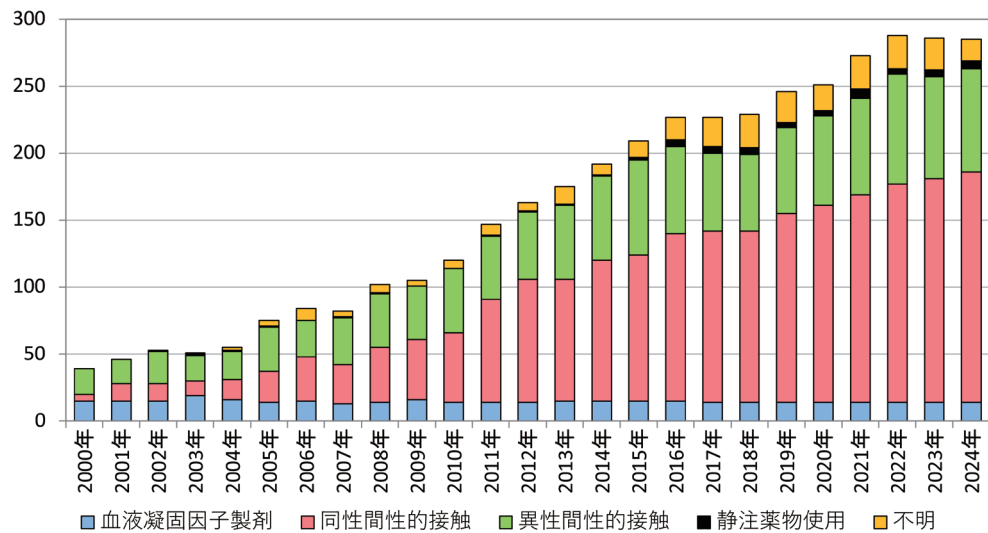


図2 定期通院中の感染経路別 HIV 陽性者数の推移

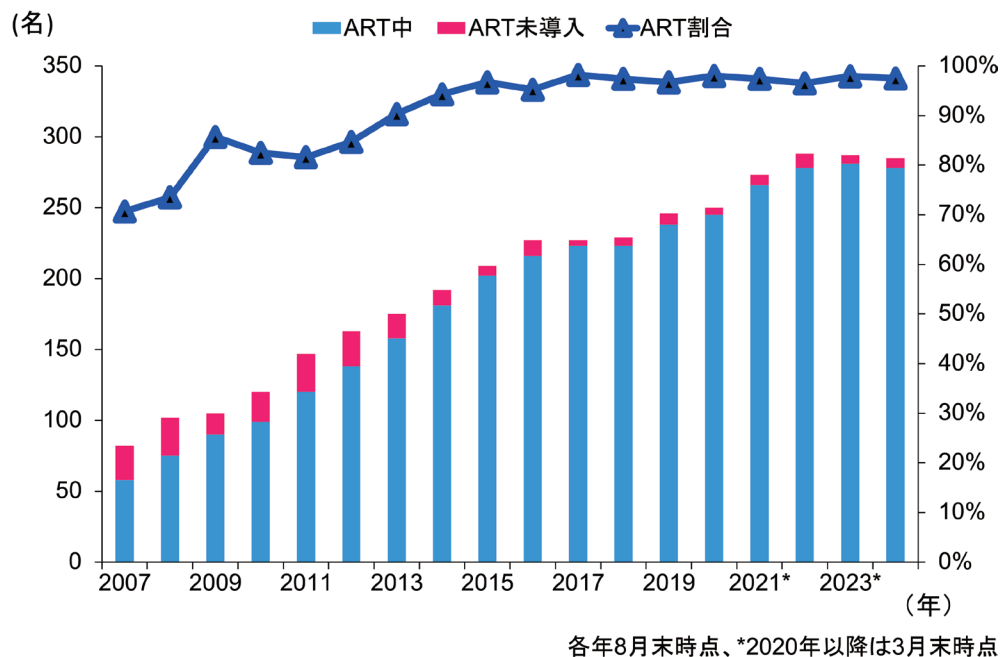


図3 ARTの導入状況の推移

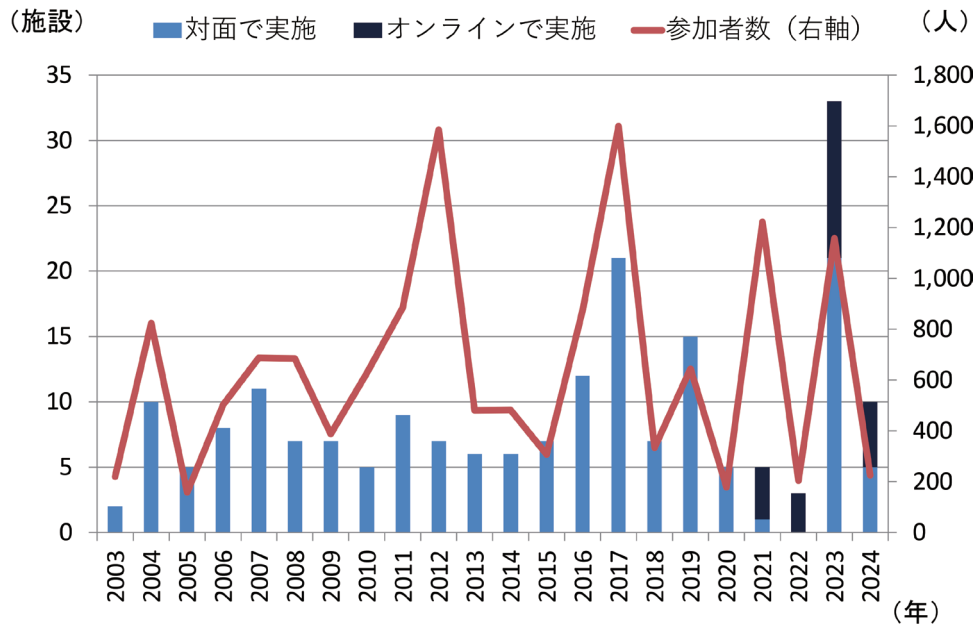


図4 HIV/AIDS 出前研修の年次別実施状況

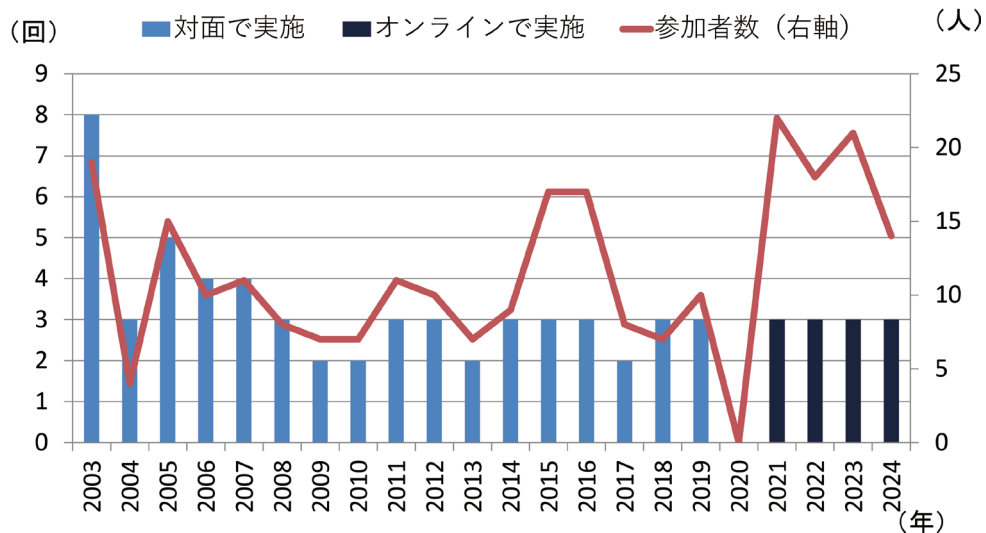


図5 HIV 専門外来研修の年次別実施状況

② HIV/AIDS 出前研修

2024年度は病院・医院（歯科医院も含む）に7施設延べ8回、介護福祉施設2施設に2回の、計10回225名を対象に実施した。

図4に、2003年度からの出前研修の状況を年度別に示す。22年間で延べ200施設に出前研修を実施し、14,269名の参加を得た。

③ 医療従事者向けHIV 専門外来研修

今年度はオンライン形式で3回、開催した。2003年以降の22年間（2020年度は新型コロナウイルス感染症の流行のため開催なし）で68回の研修を行い、延べ252名の受講者を受け入れている。図5に、HIV 専門外来研修の年度別実施状況を示す。

④ 職種別HIV/AIDS 連絡・研修会

2024年度の職種ごとの連絡・研修会の一覧を表に示す。

⑤ 北陸HIV 臨床談話会

2024年度北陸HIV 臨床談話会は、9月28日に福井大学医学部附属病院（福井県中核拠点病院）に対面形式で開催した。特別講演では、埼玉医科大学総合医療センター感染症科・感染制御科の塚田訓久先生に「HIV 診療を取り巻く『呪（のろ）い』」の演題名でご講演いただいた。

⑥ 教育啓発用資材の作成

日常診療でHIV 陽性者との関わりがない医療機関

表 職種別 HIV/AIDS 連絡・研修会（2024 年度）

● 北陸ブロックHIV/AIDS看護連絡会議	20名	6月28日	WEB
● 薬害エイズ研修会	113名	7月1日	金沢市・WEB
● 北陸ブロックカウンセリング・ソーシャルワーク連絡・研修会	44名	8月2日	金沢市・WEB
● 富山県エイズカウンセリング研修会	20名	10月3日	富山市
● 福井県HIV/AIDSカウンセリング・ソーシャルワーク研修会	29名	11月19日	WEB
● 北陸地区歯科診療情報交換会・研修会	32名	2月16日	金沢市・WEB
● HIV感染症薬剤師・栄養担当者・検査担当者合同研修会	49名	2月20日	WEB
● 看護師・MSW・心理職合同HIV/AIDS研修会	44名	2月28日	金沢市・WEB



図6 HIV/AIDS啓発用卓上カレンダー

の職員にも HIV/AIDS に関する知識を提供する目的で作成・配布した。カレンダーの左側には、HIV/AIDS についての基礎知識を図表として記載し、診療や業務の合間に気軽に学んでもらう機会を提供することを目的とした（図6）。

D. 考察

① アンケートによる北陸ブロックの現状分析については、北陸ブロック全体で診療を受けている患者数が増加している（図2）。なかでも男性同

性間性的接触（MSM）によって感染した患者数が増加傾向にあり、MSM への HIV 感染予防啓発や、早期診断・治療への介入は重要である。患者がブロック拠点病院に集中する傾向は変わらないが、近年では富山県、福井県の中核拠点病院にも集まりつつある（図1）。HIV 感染症は治療の進歩に伴い、「死の病」から「コントロール可能な慢性疾患」へと変化し、患者の高齢化や生活習慣病の合併が問題となっている今、拠点病院や一般病院、そして歯科を含めた医院との

連携の必要性が増している。

- ② HIV/AIDS出前研修は、2024年度はのべ10回実施した（図4）。出前研修前にアンケートを実施することで、受講者のHIV/AIDSに関する知識・認識や、HIV診療への関心・意欲を事前に把握し、それらを研修内容に反映させた。また、アンケートの実施によって、疑問点が明確となり、受講者個人の研修参加意欲にもつながったと考えられる。2023年度からは、出前研修に用いたスライドと、アンケート結果を、フィードバック資料として後日配布し、研修内容を振り返り、再度知識の確認ができるよう、取り組んでいる。出前研修によって、少しずつHIV感染症への理解が進み、少しずつではあるが、医院、歯科医院、介護施設等での受け入れ事例が増えている。
- ③ HIV専門外来研修は、2003年以降22年間（2020年度は新型コロナウイルス感染症流行の影響で中止）で、252名の受講者を受け入れている。この研修を通じて、受講者の勤務先の病院と、ブロック拠点病院との間の診療連携につながった事例もある。拠点病院間の連携や拠点病院と一般病院との連携を含め、今後もそれらの輪が広がるよう期待している。専今後も研修終了後の評価や提案を検討し、内容や方法を充実させ、状況や需要に応じて継続する予定である。
- ④ 医療職種別HIV/AIDS連絡・研修会は、それぞれの医療職種において原則毎年開催しており、HIV診療の医療体制を整備するために重要である。様々な研修を通して、ブロック拠点病院と拠点病院、その他の医療・介護・保健施設、行政などが有機的連携を図ることができるよう、更なる医療体制の整備に向けて取り組みたい。
- ⑤ 北陸HIV臨床談話会は、HIV診療やHIV対策事業に関わる人や陽性者などが、情報を交換し共有する場である。2001年度に会として立ち上げ、年2回開催していたが、2009年度からは年1回、3県の中核拠点病院の持ち回り開催とした。2024年度は、福井大学医学部附属病院（福井県中核拠点病院）で開催した。この会は、職種や施設を超えた情報の共有や活動の連携に重要な会となっている。地域性や職種を考慮した世話人らと、会の在り方や内容について話し合いながら、今後もその充実に努めていきたい。

E. 結論

北陸ブロックでは、各県の中核拠点病院の機能が

発揮されることにより、ブロック拠点病院への患者集中の緩和や、各中核拠点病院での経験の蓄積につながっている。しかし、一部の拠点病院を除き、治療経験の少ない拠点病院や患者を受け入れられない拠点病院が未だに存在することも事実である。効果的な医療体制を構築するために、各県の自治体やブロック拠点病院は、連携を保ちながら中核拠点病院への支援し、中核拠点病院は意識の向上に努めるとともに、県内の各拠点病院を支援することが重要である。一方で、長期療養・在宅ケア体制の整備、歯科治療および透析患者の受け入れ体制の整備も必要で、今後も研修や会議の機会を保ち続けていくことが重要と考えられる。

HIV感染症がコントロール可能な慢性疾患と位置付けられるようになった今、患者の高齢化への対策、メンタルケア、遠方への通院困難や様々な合併症の管理の重要性が増していると考えられる。HIV感染の有無に関わらず、必要な医療や福祉サービスが提供されるよう、医療体制をさらに整備していく必要があると考えられる。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

原著論文による発表

欧文

- 1) Takeshi Hagiwara, Hiroshi Yotsuyanagi, Teruhisa Fujii, Tomoyuki Endo, Azusa Nagao, Eiji Mita, Mihoko Yotsumoto, Kagehiro Amano, Toshihiro Ito, Yoshiyuki Yokomaku, Masato Ukita, Takashi Suzuki, Tamayo Watanabe, Ei Kinai, Katsuyuki Fukutake, Pan-Genotypic DAA Therapy for HCV Genotypes Not Covered by Health Insurance for Hemophilia Patients with or without HIV in Japan : Report of a Joint Multi-Institutional Study of the Clinical Study Group for AIDS Drugs, The Journal of AIDS Research,26,713, 2024.
- 2) Michiko Koga, Akari Fukuda, Masanori Nojima, Aya Ishizaka, Toshihiro Itoh, Susumu Eguchi, Tomoyuki Endo, Akiko Kakinuma, Ei Kinai, Tomomi Goto, Shunji Takahashi, Hiroki Takeda, Takahiro Tanaka, Katsuji Teruya, Jugo Hanai, Teruhisa Fujii, Junko Fujitani, Takashi Hosaka, Eiji Mita, Rumi Minami,

Hiroshi Moro, Yoshiyuki Yokomaku, Dai Watanabe, Tamayo Watanabe, Hiroshi Yotsuyanagi, Non-acquired immunodeficiency syndrome defining malignancies in people living with haemophilia and human immunodeficiency virus after direct-acting antiviral era, Glob Health Med, 6 : 316-323, 2024.

口頭発表

国内

- 1) 渡邊珠代. 当院で処方されている抗HIV治療薬についての検討. 第98回日本感染症学会総会・学術講演会、第72回日本化学療法学会学術集会合同学会、2024年、神戸.
- 2) 渡邊珠代. HIV感染者の診断前の受診状況についての検討. 第73回日本感染症学会東日本地方会学術集会、第71回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会、2024年、東京.
- 3) 渡邊珠代. 当院に通院中のHIV感染者の5年間の変化についての検討. 第94回日本感染症学会西日本地方会学術集会、第72回日本化学療法学会西日本支部総会合同学会、2024年、神戸.
- 4) 渡邊珠代、辻典子、山田栞里、朝倉英策、森永浩次、吉尾伸之、井上仁、今村信、清水和朗、高松秀行、村井佑至、彼谷裕康、岩崎博道. 北陸ブロックで処方されているARTについての検討. 第38回日本エイズ学会学術集会・総会、2024年、東京.
- 5) 宮田勝、高木純一郎、釜本宗史、向井真紀、槇野莉紗、越田美和、塚本暁子、塩谷元子、辻典子、石井智美、小谷岳春、渡邊珠代. 北陸ブロック拠点病院歯科における歯科医療体制整備活動を振り返る. 第38回日本エイズ学会学術集会・総会、2024年、東京.
- 6) 上條慎子、谷内通、久保かおり、渡邊珠代. 北陸地方におけるHIV陽性者の孤独感と精神的健康の関連. 第38回日本エイズ学会学術集会・総会、2024年、東京.
- 7) 安田明子、渡邊珠代. 能登半島地震における抗HIV薬における問題点・課題について. 第38回日本エイズ学会学術集会・総会、2024年、東京.
- 8) 石井智美、車陽子、渡邊珠代. 能登半島地震におけるHIV陽性患者への治療継続支援を実施した一例. 第38回日本エイズ学会学術集会・総会、2024年、東京.
- 9) 片田圭一、南雅子、渡邊珠代、石井智美、北野

義明、西出恵里、越田春奈. 血友病による運動機能障害に配慮した車椅子の製作モニタリング事業報告～HIV長期療養支援事業～. 第38回日本エイズ学会学術集会・総会、2024年、東京.

- 10) 菊地正、西澤雅子、椎野禎一郎、豊嶋崇徳、伊藤俊広、林田庸総、潟永博之、古賀道子、長島真美、貞升健志、佐野貴子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂寛、渡邊珠代、今橋真弓、蜂谷敦子、松田昌和、重見麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊大、阪野文哉、川畑拓也、藤井輝久、高田清式、中村麻子、南留美、松下修三、仲村秀太、小島潮子、Lucky Runtuwene、吉村和久、杉浦互. 2023年の国内新規診断未治療HIV感染者・AIDS患者における薬剤耐性HIV-1の動向. 第38回日本エイズ学会学術集会・総会、2024年、東京

H. 知的所有権の出願・取得状況

該当なし